

「省資源・環境保全下の経営成長条件」

青山学院大学 理工学部経営工学科教授 佐久間章行氏

「環境原理主義者」によれば文明の崩壊は地域的規模から世界的な規模に拡大し、人類の滅亡は目前に迫っている。近代機械文明の寿命はあと100年間だ。人類、社会の継続的发展のためには、善悪・理非の評価基準を根底から変えていく。生産性向上と地球資源の有限化の問題、民主主義と人権擁護の絶対性の問題など、人間という生物の新しい行動原点を見直す必要がある。しかし、アンケート調査によると、誰もが今の豊かさ・便利さを捨ててまで現在を守ろうとまで本気で考えているわけではない。そこに真の意味での「危うさ」が隠されている。

我々は、文明の成果を子孫に渡す責任を持つ。そのために考慮すべきは①製品企画：意図的な商品陳腐化政策、作為的な耐用年数の短縮、無意味な潜在欲求の開発などは行なうな。②製品部材：過剰機能は止めよ。分解性の向上、部品交換の容易性、廃棄の容易化に努めよ。手配システムを変えて多頻度納入を止めよ。③生産拠点の設定：原材料、製品のリサイクルが可能な場所で生産せよ。④工場建設：エネルギーの得やすい場所で、かつ地域環境や廃棄物処理に十分対応できる場所にせよ。⑤生産設計：歩留向上と不具合箇所の手直しが可能な設計とせよ。不良品を捨てるな。⑥工程設計：設備の廃棄処理を少なくし、設備保全の容易化をはかれ。⑦生産実施：必要量のみつくり、予備部品や中間在庫を少なくせよ。リサイクル可能なロットサイズとせよ。不良品の手直し再納入を認めよ。⑧流通管理：リサイクル品の回収、流通在庫の減少、廃棄頻度の減少をはかれ。容器のリサイクルを行なえ。過剰包装を止めよ。保管にエネルギーを使うな。⑨アフターケア管理：サービス期間の延長、補修部品の確保、保全費用の低廉化、修理費用の低下をはかれ。・・・というものだ。

これまでの長い間、土地の確保、労働力の維持、子供をふやす、資本の蓄積、技術の向上、帰属集団の安定、企業間の自由競争等は善であって、その逆はすべて悪であるという前提の下で企業は経営を行ない、社会の生産性基準を実現するための仕組みとしての機能が重視され、資源の大量消費が容認されてきた。しかし今日、企業の存続が容認されるためには、新しい生産文化を指向する社会的な合意が重要基本条件となりつつある。